

榊原病院 Monthly

Vol.18
2016.December

独立行政法人 国立病院機構 榊原病院
National Hospital Organization SAKAKIBARA Hospital
発行者 榊原病院企画課

院長

村上 優(むらかみ まさる)

1949年生まれ

74年九州大学医学部卒

86年国立肥前療養所精神科医長、2002年同療養所臨床研究部長、

同年King's College London Institute of Psychiatry(司法精神医学研究所)長期研修。

2005年花巻病院臨床研究部長(併任)、2006年琉球病院長を経て、2014年榊原病院長に就任。

日本司法精神医学会理事、日本アルコール関連問題学会監事。

NGOベシヤワール会の会長として活躍。



病院理念

この病院で最も大切なひとは治療を受ける人である

〈南2病棟リオープンから半年の実績〉

副院長 村田 昌彦

今年5月16日、南2病棟をリオープンして、治療抵抗性統合失調症における薬物療法の切り札であるクロザピンを患者さまにより安全に、より効率的に内服していただくことができるようになりました。リオープンしてからの半年間に8名の患者さまが新たにクロザピンを内服し、当院ではこれまでに38名の患者さまがこの薬を利用していただいています。クロザピンには様々な副作用がありますが、当院にはクロザピンの治療経験の蓄積があり、重大な副作用を生じることなく治療を進めています。医師、看護師、心理療法士、作業療法士、精神保健福祉士が多職種チームを組んでクロザピンを中心とした治療を行っており、南2病棟をリオープンし知見を集約し治療に反映する効果が表れているといえます。クロザピンは内服するだけでなく、チームで行う心理社会的な治療との両輪でより大きな効果が得られます。南2病棟ではこれらの治療を集中的・効果的に行うことができます。長期入院されていた患者さまが元気に退院したり、これまでの治療ではなかなか落ち着いて暮らすことができなかつた患者さまが穏やかになっていく様子を見ると、この治療を行うことができたと実感します。ご家族や患者さまご自身が我々と同じように実感されることも大きな喜びです。

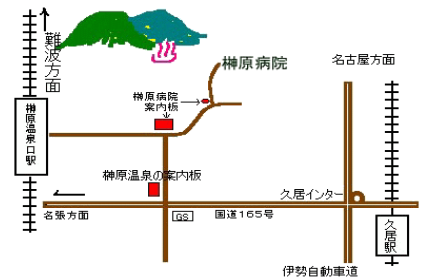
今年12月からは当院が所属する国立病院機構ネットワークの共同研究という形で、クロザピンの血中濃度を測定できるようになりました。お飲みいただいているクロザピンが血液中にどれくらい存在するか、明確に測定できるようになったのです。これまでは問診により状態を評価して調整していた内服量を、今後は血中濃度を確認しながら、より安全に、効果的に調整することができるようになりました。来年(平成29年)からは、この治療に関心をお持ちになっているほかの精神科病院と広く連携し、治療抵抗性統合失調症で困っていらっしゃる患者さまに広くこの治療の機会を提供できるようにしていきたいと考えています。当院が遠いと感じられる場合でも、クロザピンの導入だけ当院で行い(クロザピンの内服開始は入院して行うことがルールとなっています。)、状態が良くなった後に地元の病院に通院することができる治療連携の準備を進めています。ご関心があれば、遠慮なく当院の地域連携室までご連絡ください。

診療科

- 一般精神科
- アルコール・薬物依存症 専門外来
- こころのリスク外来

病床数 176床

- 精神科病棟 158床
- 医療観察法 18床
- 認知症ユニット
- アルコール・薬物依存症ユニット



電車・バス / 近鉄久居駅下車、三交バス(榊原温泉口駅行)にて約30分。榊原口バス停下車徒歩約10分。

自動車 / 久居インター(伊勢自動車道)より西へ約20分

マイクロバス / 久居駅より直通バス(約25分)

トピックス

行事・出来ごと

- アルコール家族教室(10/27、11/10、24、12/8、22、1/12、26、2/9、全8回13:30~14:50)
- 平成28年7月より、デイケアを週3日から週4日に拡大しました。
- 平成28年11月1日、「秋祭り」を開催しました。

教育・研修

- 寺子屋・榊原塾「今日の精神医学と医療」の開催のお知らせ
・12月13日(火)17:30~19:00 テーマ:司法精神医学
特別講師 村杉謙次 国立病院機構小諸高原病院診療部長

榊原病院ホームページ
QRコード



地域医療連携室だより

〈図書ルームからのお知らせ〉

患者様・ご家族様に、図書を通じて病気や医療・福祉の情報を広く知っていただき、回復への志向・治療に取り組み意欲を高め、治療に参加し、治療者とのより良いコミュニケーションにつながればと考えています。

入院患者様は自由散歩の時間を利用して、ふらっと寄ってパラパラと見て帰る方、しっかりと読み込んで帰る方など様々です。 開設時間：第2月曜日11時～12時



空床状況
12月6日現在

精神科病棟
20床

訪問看護

当院の訪問看護は、退院後地域で安定した生活が送れることを目標といたしております。退院後の課題といたしましては、大切な薬を中断してしまうこと・生活リズムを守れず昼夜が逆転してしまうことやお金の管理が上手くできず使いすぎて生活に困る等の病状がみられます。

これらの症状の悪化に伴い再入院する方が多くなっております。患者様と家族の困ったことについて、地域の方々の支援を受けながら一緒に考え、安定した生活ができることを目標としております。

治療抵抗性精神疾患への医療

〈クロザピンの治療状況〉

治療抵抗性統合失調症に対して、平成26年10月に1例目の投与を開始し、平成28年11月までに全症例は38例となりました。11月の新規導入は1例でした。12月も順次投与を開始する予定です。

また、今後クロザピン専門外来の開設についても準備を進めていく予定としています。



認知症医療・アルコール・薬物依存医療・こころのリスク外来

〈認知症医療〉

認知症の患者様は高齢であることから、様々な合併症をお持ちの方が多くおられます。また、アルコール問題の後に、認知機能が低下した方、さらに身体疾患に併発した認知機能の障害のある方は、若年の方にも見られます。したがって、現在は80歳以上の超高齢の方と50～60代の若年の方にも見られます。身体的な問題については、三重中央医療センターと連携を図りながら、幻覚や妄想、不穏など認知症の周辺症状（BPSD）に対応しています。

一般病院や介護施設において、BPSDの問題でお困りの場合はご相談ください。

〈アルコール・薬物依存医療〉

適正な飲酒量とはどの程度かご存知でしょうか？「節度ある適度な飲酒」とは、純アルコールで1日約20グラム程度、つまり日本酒なら1日1合、ビールなら大瓶1本だけなのです。日本酒3合では健康に悪影響の出る「多量飲酒」（健康日本21）と言われています。もし減らすことが難しいという方がおられましたら、外来・入院での治療プログラムにてご協力させていただきます。平成27年4月から当院のアルコール・薬物依存症治療のプログラムをリニューアルしました。

お一人で、ご家族だけで悩み解決しようとするのではなく、まず専門スタッフへお気軽にご相談下さい。ご自分だけで抱えずに相談することが、病気を回復する第1歩です。

〈こころのリスク外来〉

思春期・青年期はこころのリスク状態が高まり、さまざまなこころの病気を発症しやすいと言われています。当外来はこころのリスク状態を早期に見発見・治療していくための専門外来ですので、お気軽にご相談ください。



デイ・ケア案内

デイケアは毎週、木曜日を除く週4日、北病棟3階作業療法室奥で実施しています。実施時間は9時30分から15時30分です。

朝から参加するのは大変だという声もありますが、朝から起きて活動する場所として活用して頂きたいと思っております。昼食づくり等の新しいプログラムも行います。参加希望の方は主治医またはデイケア担当者にご連絡下さい。

主な内容：症状自己管理教室、スポーツ、クッキング教室、カラオケ、など
デイケアのパンフレットを外来待合室に置いてあります。また、病院ホームページに月間プログラムもあります。お気軽にお問い合わせ下さい。



榊原は自然がいっぱい！
お話しながら歩きませんか？



大人気のクッキング教室で、
カレーライスを作りました。

近況だより

外来診察室を増やすための工事を行います

当院の外来診察室は3室しかないため、外来患者様には診察予約日等の調整をお願いしている状況です。その解消のため、この度、外来診察室を5室に増やすための整備工事を行ないます。

工事施工に当たっては細心の注意を払い、特に診察中は騒音・振動等を伴う工事はしない方針で進めて参りますので、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

工事期間（予定）：平成29年1月～3月末（約3ヶ月間）

